

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3632007号
(P3632007)

(45) 発行日 平成17年3月23日(2005.3.23)

(24) 登録日 平成16年12月24日(2004.12.24)

(51) Int.Cl.⁷

F I

B 0 5 C 17/00

B 0 5 C 17/00

A 4 6 B 3/00

A 4 6 B 3/00

B 6 5 D 83/00

B 6 5 D 83/00

J

請求項の数 1 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2002-46426 (P2002-46426)
 (22) 出願日 平成14年2月22日(2002.2.22)
 (65) 公開番号 特開2003-245592 (P2003-245592A)
 (43) 公開日 平成15年9月2日(2003.9.2)
 審査請求日 平成14年2月22日(2002.2.22)

(73) 特許権者 302006979
 双葉総業株式会社
 東京都大田区北嶺町 3 7 - 3 6
 (74) 代理人 100109955
 弁理士 細井 貞行
 (74) 代理人 100090619
 弁理士 長南 満輝男
 (74) 代理人 100111785
 弁理士 石渡 英房
 (72) 発明者 境 克夫
 東京都大田区北嶺町 3 7 - 3 6 双葉総業
 有限会社内

審査官 伊藤 元人

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 接着材用塗布具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

接着材容器の開口部に着脱自在に備え可能な接着材用塗布具であって、塗布具本体は、同軸状の基側の柄部と中間の栓部と先側の塗り部からなり、柄部は、前記開口部に着脱可能に備えられた状態で、開口部の外側に位置して、握り操作可能に形成し、栓部は、前記開口部に着脱可能で且つ開口部を密閉状に閉じ可能に形成してあると共に、外径を柄部の径よりも大径にして、栓部上面部に押し面部を形成し、塗り部は、各繊維が球心から放射状に展開していて、この放射状の隣り合う各繊維間に多数の接着材保有間隙を保有した球形状であると共に、塗布面を球形面で形成してあることを特徴とする接着材用塗布具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は接着材用塗布具に関し、さらに詳しくは、被塗布面が例えば塩化ビニール製の管や継手等のように曲面であるものに有用な接着材用塗布具に関する。

【0002】

【従来の技術】

塩化ビニール製の管や継手を塩化ビニール系の接着材で接続する際、従来使用されている刷毛では、刷毛の塗布面積が少ないために、接着材の塗布作業を径が太くなるのにしたが、数回に分けて塗布しなければならない。ところが、塩化ビニール系の接着材は速乾性であるため、数回の塗布中に乾いてしまい、接着材による接続作業に難儀しているの

が実情である。

また、従来の刷毛では、被塗布面に対して刷毛をほぼ立てた状態でないと塗布することさえできないという塗布方向の制限があるため、刷毛を管や継手の軸線周りにほぼ一周させることによって塗布しており、作業スペースが確保されている場合でも面倒であって、作業スペースが片側しか確保されていない場合には塗布すること自体ができない不備があった。

【 0 0 0 3 】

【 発明が解決しようとする課題 】

解決しようとする課題は、管や継手等が太くても手早く確実に塗布することができて、しかも、作業スペースが片側しか確保されていない場合でも確実に塗布できる使用上の優位性が高い接着材用塗布具を提供することにある。

10

【 0 0 0 4 】

【 課題を解決するための手段 】

本発明は前記した課題を達成するため、接着材容器の開口部に着脱自在に備え可能な接着材用塗布具であって、塗布具本体は、同軸状の基側の柄部と中間の栓部と先側の塗り部からなり、柄部は、前記開口部に着脱可能に備えられた状態で、開口部の外側に位置して、握り操作可能に形成し、栓部は、前記開口部に着脱可能で且つ開口部を密閉状に閉じ可能に形成してあると共に、外径を柄部の径よりも大径にして、栓部上面部に押し面部を形成し、塗り部は、各繊維が球心から放射状に展開していて、この放射状の隣り合う各繊維間に多数の接着材保有間隙を保有した球形状であると共に、塗布面を球形面で形成してあることを特徴とする。

20

【 0 0 0 5 】

ここで前記した球心とは球の中心である。そして、本発明における塗布具本体は、塗布部を除いて、同一体の成形品であっても良いし、柄部および/または栓部を別体の組み合わせ態様としても良い。また、塗布具本体の材質は、塗布部を除いて、ポリプロピレンまたはプラスチック等の合成樹脂製或いは木製若しくは金属製、その他の材質のものであっても良い。例えば、栓部のみをゴム製にしても良い。塗布部を形成している繊維は、ストレート繊維或いは巻縮繊維のいずれであっても良いし、材質はポリプロピレン繊維等の合成繊維が望ましい。

【 0 0 0 6 】

30

【 発明の実施の形態 】

図 1 には本発明の接着材用塗布具における実施の 1 形態を例示しており、塗布具本体 1 は、同軸状の基側の柄部 2 と中間の栓部 3 と先側の塗り部 4 で構成されている。柄部 2 は、握り操作し易い棒状に形成していて、栓部 3 が接着材容器 5 の開口部 5 a に着脱可能に嵌合された状態で、開口部 5 a の外側に位置するようにしてある。柄部 2 における指当て部 2 a はなくても良い。柄部 2 および栓部 3 ならびに杆部 1 a はポリプロピレン製の一体成形品である。

【 0 0 0 7 】

栓部 3 は、開口部 5 a に対して着脱可能で且つ開口部 5 a を密閉状に閉じ可能な逆円錐台形状に形成してある。また栓部 3 は、外径を柄部 2 の径よりも大径にして、栓部上面部に押し面部 3 a を形成することで、この押し面部 3 a に指を押し付ける等して開口部 5 a の閉栓操作をし易くしている。

40

【 0 0 0 8 】

塗り部 4 は、球形状にして、球形面を塗布面 4 a として形成している。この球形面からなる塗布面 4 a は、球心から放射状に展開している各繊維 4 b 先端で形成されている。そして、この放射状の隣り合う各繊維 4 b 間には多数の接着材保有間隙 4 c を塗布面 4 a と相互に連通状に形成している。各繊維 4 b はポリプロピレン製のもので、球心部位において針金等の線材 4 d により結束されることで放射状を呈している。かかる塗り部 4 は、線材 4 d を栓部 3 から延びる杆部 1 a 先端に埋設状に止着することで一体的に固定してある。

【 0 0 0 9 】

50

杆部 1 a は先細状に形成していて、球形面からなる塗布面 4 a が最大面積を確保し得るようになっていると共に、杆部 1 a の長さを、閉栓状態で塗り部 4 が接着材容器 5 内の底近くまで達する長さ比に形成することにより、閉栓時に接着剤を塗布面 4 a および各繊維 4 b 間の多数の接着材保有間隙 4 c に確実に保有して、塗布に備えられるようにしてある。

【 0 0 1 0 】

【発明の効果】

A . 請求項 1 により、塗布面が球形面で、この球形面からなる塗布面を形成している各繊維間に球心近くより放射状に展開している多数の接着材保有間隙 4 c を保有しているため、塗布面の塗布面積が大きくて、しかも、塗布方向の制限が最小限に抑えられていること

10

で、管や継手等が太くても手早く確実に塗布することができ、そして、作業スペースが片

また、閉栓時には、栓部における押し面部に指を押し付ける等して行なうことで開口部の閉栓操作がし易い。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の接着材用塗布具における実施の 1 形態を例示している正面図。

【図 2】一部切欠して示す拡大正面図。

【図 3】使用状態を示す斜視図。

【符号の説明】

1 塗布具本体

1 a 杆部

20

2 柄部

2 a 指当て部

3 栓部

3 a 押し面部

4 塗り部

4 a 塗布面

4 b 繊維

4 c 接着材保有間隙

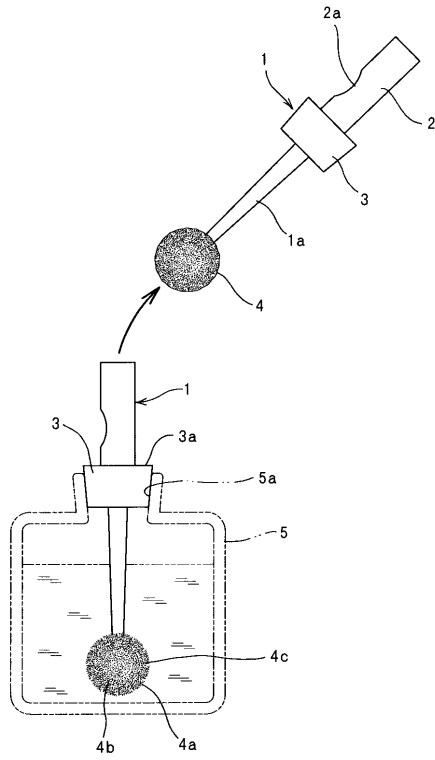
4 d 線材

5 接着材容器

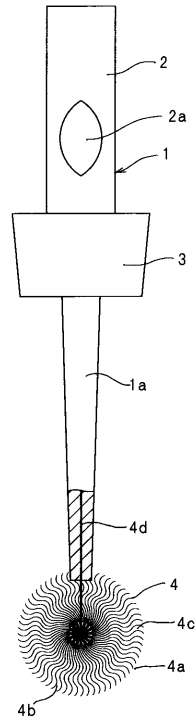
30

5 a 開口部

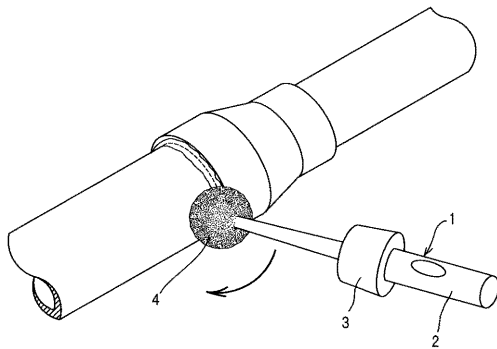
【図 1】



【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

(56)参考文献 国際公開第01/062177(WO,A1)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷,DB名)

B05C 17/00

A46B 3/00

B65D 83/00